

五戸総合病院での地域研修を終えて

令和3年1月研修医
順天堂大学医学部附属浦安病院
初期臨床研修医 金子 浩太郎

今回私は令和3年1月の間、地域研修として五戸総合病院で研修させていただきました。人生で初めての雪国、そして新しい職場ということもあり、期待と不安をかかえながら新幹線に乗っていたのを今でも覚えています。しかし出会う方皆さん素晴らしい人柄のおかげで研修が始まってみれば、すぐに不安は杞憂に終わりました。都市部の大学病院でしか研修をしていなかったのも、今回の地域研修で得たもの、実感したことはとても大きな財産になると思います。

まず、この1ヶ月の研修の中でとても印象に残っている言葉があり、それは「なるべくこの地域だけで医療を完結させる」、往診に同伴した際に安藤先生が仰っていた言葉です。実際、外科であっても肺炎や尿路感染などの内科的治療が必要な方が入院していたり、皮下腫瘍や陥入爪など大学病院であれば皮膚科の領域である疾患の手術を行ったりと医師一人一人が幅広い疾患をカバーし対応していることを実感しました。また地域医療として患者さん一人一人がどのように生活をしていくのかを考えることも重要であることを学びました。自宅の環境整備や施設の利用、往診、訪問診療など個人個人に必要な医療を地域の中でいかに提供していくか、普段急性期の病院で働いている自分にとってはどこか他人事のように考えていたことも今回の研修でとても身近に感じられました。

研修の内容としては小手術の執刀、全身麻酔の管理、胃瘻造設などさまざまな経験を積ませて頂きました。とくに器械出しをさせて頂いたのは良い経験になりました。細分化されている医療の中で、五戸総合病院で実感した病気だけでなく患者さんを診るという姿勢を今後も意識して研鑽を積んで参りたいと思います。

研修以外でも美味しいご飯を頂き、十和田や函館などにも足を伸ばすことができました。なにより研修医の仲間、指導医の先生方と一緒にかまくらを作った思い出は今後ずっと残ると思います。また違う季節の五戸にも遊びに行きたいと思います。

最後にはなりますが、今回研修をさせていただくにあたり安藤院長先生をはじめ、杉沢先生、後村先生、コメディカルの方々、管理班の方々、その他大勢の病院関係者の皆様には温かく迎え入れて頂き大変お世話になりました。この場で深く感謝申し上げます。これから医師としてだけではなく、五戸病院で出会った方々のように周りの人、目の前の人を大切に、人間としても成長できるように努力して参ります。1ヶ月間ありがとうございました。